

令和4年度 見島小中学校教育計画

1 学校訓

「育てよう心」「のぼそう力」

2 学校教育目標

豊かな心と健やかな体をもち、
夢の実現に向けて自ら学び続ける見島っ子の育成

3 めざす児童生徒像

み…認め合い支え合う子（徳） 仲良くする子	・自分や他人のよさに気付く子 ・相手の立場に立って考える子
し…心身共に健康な子（体） 元気のよい子	・自分の生活習慣を見直し、自己管理能力を高めようとする子 ・目標をもって体力づくりに取り組む子
ま…学び合い高め合う子（知） 考える子	・相手の意見をしっかり聞ける子 ・自分の考えがもてる子

4 めざす学校像

- 一人一人を大切にできる学校
- 明るく楽しい学校
- 地域に根ざした信頼される学校
- きれいな学校

5 めざす教師像

- 愛情をもって子どもと共に在る教師
- 創意をもって工夫する教師
- 熱意をもって実践する教師
- 誠意をもって協力する教師
- 地域・保護者に信頼される教師

6 児童生徒に身に付けさせたい資質・能力

- 問題解決能力**
- ※生活の中で生じるあらゆる問題を他人と協力してより良く解決していく力

7 チャレンジ目標

- 関わり、 考え、 伝え合う**
(協働する力) (探究する力) (表現する力)
- ※この三つの力を伸ばすことで、問題解決能力を高めることにつなげる。

8 学校運営方針

- 小中一貫教育を柱に、「確かな学力（知）」、「豊かな心（徳）」、「健やかな体（体）」の調和のとれた『生きる力』を育む教育の実現に努めるとともに、『個に応じた指導・個を生かす指導』をキャッチフレーズに、全教職員が一丸となってきめ細かな指導・支援を行う。
- 児童生徒に身に付けさせたい資質・能力を『問題解決能力』とし、学校、家庭、地域社会が連携して様々な活動の中で「協働する力」、「探究する力」、「表現する力」の三つの力をバランス良く高めることを通して、子どもたちの将来に生きて働く力として育てていく。
- 『見島を学ぶ・見島に学ぶ』教育を根底に、見島の人や自然、文化と直接ふれあう体験的な活動を重視した地域学習を推進する。また、そこで得た内容をまとめ、島民や本土の学校の児童生徒に積極的に発信する。
- I C T機器を効果的に活用した教育活動の重要性に鑑み、引き続き教職員の研修の充実に努め、児童生徒の学力向上及び学びの保障につなげていく。
- 9年間を見通した系統的・計画的なキャリア教育を推進する。
- 縦割り班（給食・清掃活動、ミシマウォーク、島民運動会、文化祭（公民館祭り）、おによろずづくり、凧揚げ大会、花壇づくり等）で児童生徒の自主性を育成する。
- 情報公開（ホームページ、学校だより・コミュニティ・スクールだより、学校開放等）を通じて学校を開き、児童生徒、保護者、地域住民から信頼される学校づくりを推進する。

9 本年度の重点目標

(1) 思いやりの心と豊かな感性を育てる教育活動の推進 ～豊かな心～

- ① 道徳教育（人権学習を含む）の充実と指導の工夫改善に努める。
 - ・道徳の授業公開やオンライン授業を推進する（公開授業、学級だより等）。
 - ・「考え、議論する道徳」の授業づくりを推進する。
- ② 読書習慣の形成を図り、豊かな心を育む。
 - ・児童生徒の個々の目標を設定し、読書活動を推奨する。
 - ・保護者への啓発を図り、家庭での読書活動を奨励する。図書館の地域開放の推進。
- ③ ふれあい活動を通して、望ましい人間関係を育てる。
 - ・人材バンクを拡充し、見島ならではの教育活動の推進と地域の方々とのふれあいの時間を増やす。
 - ・小中一貫教育校やオンライン授業等で関わりのある学校と積極的に交流学习を行い、内容の充実を図る。また、保育園との連携にも力を入れ協力体制を構築する。
 - ・児童生徒の心情を把握する（生活アンケート、校内教育支援委員会等での情報交換）とともに、いじめを許さない心を醸成する。
 - ・小学生は中学生に対して、「あこがれ・敬う心」をもたせる。中学生は小学生に対して「先輩であることの自己有用感」をもたせる。

(2) 健康な心身の育成をめざした教育活動の推進 ～健やかな体～

- ① 家庭や地域と連携し、基本的な生活習慣の確立に努める。
 - ・早寝・早起き・朝ごはん及び食育指導の充実を図る。
- ② たくましい心身の育成に努める。
 - ・小学校：昼休みの外遊びや自分に合った運動を奨励し、柔軟の日（毎月17日）等、学校独自の取組を推進し、運動習慣の確立に努める。
 - ・中学校：保健体育科の授業や部活動の充実を図る。
 - ・合同運動会・合同文化祭・ミシマウォーク等を最後までやり抜き、達成感を各自にもたせる。
- ③ 児童生徒の自己実現を支援する教育相談の充実を努める。
 - ・キャリアパスポートを活用し、設定した志を、教職員間、保護者と共有し支援する。
 - ・スクールカウンセラーと連携して児童生徒の悩みの解決を図る。
 - ・週末の生活アンケートや教育相談を充実させ、児童生徒の悩み等の早期発見に努める。

(3) 基礎・基本の確実な定着と個に応じた学習指導の充実 ～確かな学力～

- ① 学習指導要領を理解し、小・中学校が連携した教育活動を構築する。
 - ・地域の力を借りて学校行事や教育活動の工夫改善を図る。
 - ・小学校教員、中学校教員双方向での乗り入れ授業を実践し、その充実を図る。
 - ・授業スタンダードの定着、および工夫改善を図る。
- ② 基礎的・基本的な内容の徹底に努める。
 - ・スキルタイムや自主学習の取組を利用し、個々に応じた基礎学力の定着を図る。
 - ・諸検査を利用して児童生徒の実態を把握し、学力向上プランの改善・活用をする。
 - ・「やまぐち学習支援プログラム」を積極的に活用し、児童生徒の学力の向上を図る。
 - ・地域による学習支援の充実を図る。
- ③ 授業実践力を磨き、分かる授業の実現に努める。
 - ・互見授業を推進し、研究主題の視点をもって、授業改善に力を入れる。
 - ・ICT機器を効果的に活用した授業を推進するため、引き続き教職員研修の充実を努めるとともに、児童生徒の学力向上に確実に結び付ける。